（別紙様式４）
【職業実践専門課程認定後の公表様式】

平成28年10月31日

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
札幌医学技術福祉歯科専門学校	昭和57年3月19日	澤田　和宏	〒064-0805 札幌市中央区南5条西11丁目1289－5 （電話）011－513－2111
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人西野学園	昭和43年1月10日	前鼻　英蔵	〒063-0034 札幌市西区西野4条6丁目11－15 （電話）011－661－6514

目的	本校の臨床検査技師科は、学校教育法並びに臨床検査技師法に基づき、授業や演習、医療機関での実習を行い、臨床検査技師として必要な実践能力及び専門的知識・技能を習得させるとともに、その徳性を養わせることを目的とする。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	専門	臨床検査技師科	平成6年文部科学省告示第84号	－

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3120	1755	60	1275	0	30
		単位時間					

生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数
240 人	197 人	10 人	38 人	46 人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 学習成績の評価は、定期試験（論文含む）、または演習、実習などの成績ならびに平素の学習活動全般から得られる評価資料（レポート等）に基づいて総合的に行う。 科目の成績の総合評価は、100点法をもっておこなう。 科目の評定は総合評価に基づいて平成28年度1年次からは秀・優・良・可・不可の5段階で、平成27年度までの入学生は優・良・可・不可の4段階で行う。
長期休み	■学年始め：4月1日～4月9日 ■夏　季：8月1日～8月26日 ■冬　季：12月21日～1月14日 ■学 年 末：3月17日～3月31日	卒業・進級条件	校長は、当該学年の履修すべき科目のすべてを修得し、学校納入金を完納した者に対して、進級を認める。 また、当該学科所定の修業年限以上在学し、履修すべき科目のすべてを修得し、学校納入金を完納した者に対して、卒業を認める。
生徒指導	■クラス担任制：　有 ■長期欠席者への指導等の対応 電話連絡、及び三者面談の実施	課外活動	■課外活動の種類 学校祭、学園祭、バスハイク新入生歓迎会、球技大 ■サークル活動：　有
就職等の状況	■主な就職先、業界等 病院・臨床検査センター等 ■就職率※1　：　100 % ■卒業者に占める就職者の割合※2　：　100 % ■その他	主な資格・検定等	・臨床検査技師 ・毒物劇物取扱責任者 ・危険物取扱者（乙種第4類） ・ビジネス実務マナー検定（2・3級） ・札幌市防災協会普通救命講習 ・ワープロ検定試験 ・Excel検定試験
中途退学の現状	■中途退学者　12 名　■中退率　5 % 平成27年4月1日時点において　在学者　199 名　（平成27年4月1日入学者を含む） 平成28年3月31日時点において　在学者　190 名　（平成28年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止のための取組 個人ファイルを作成し面談の記録等を記載しながら、継続的な学生指導を行っている。 また、学力不足の学生については、補習授業を行い学力の定着に努めている。		
ホームページ	http://www.nishino-g.ac.jp		

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

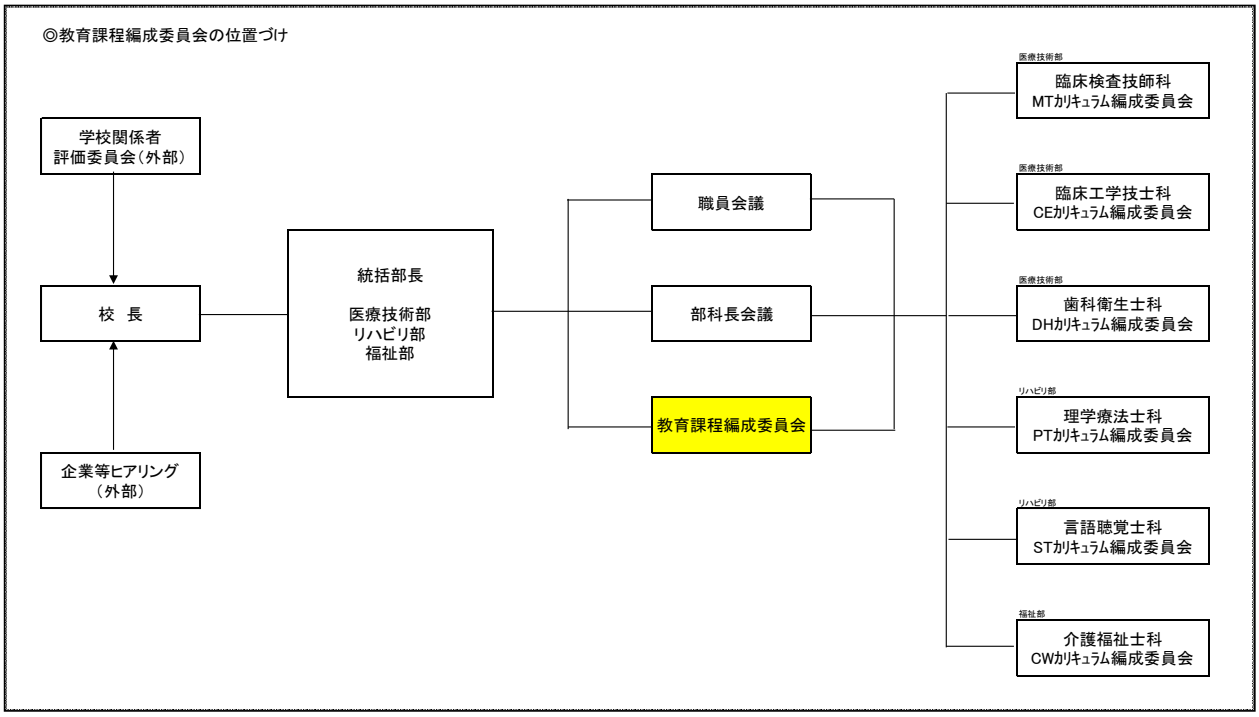
（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

関係法令を遵守し編成しなければならないことは勿論、学生の実態・就職施設（病院等）の要望を把握し教育課程編成委員会において慎重に議論を行う。

特に就職施設企業（病院等）の要望については、西野学園本部学生サポートセンター就職支援担当が実施している数カ月にわたる病院等へのヒアリングの結果を報告会等で情報収集し意見交換を行う。その結果を学科会議、カリキュラム編成委員会等で報告し教育課程編成に反映させる。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

① 各学科のカリキュラム編成委員会で教育課程の原案を決定する。
② 学校関係者評価委員会、企業ヒアリング等の意見を踏まえ原案の見直しを実施する。
③ 教育課程編成委員会の助言・指導のもと、実践的かつ専門的な教育課程の編成にあたる。



（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
和田 直樹	札幌臨床検査技師会 事務局長	1年8か月	①
三浦 邦彦	医療法人渓仁会 手稲渓仁会病院 臨床検査部 マネージャー	1年8か月	③
佐藤 忠	札幌医学技術福祉歯科専門学校 医療技術部 統括部長	1年8か月	③
松林こずえ	札幌医学技術福祉歯科専門学校 臨床検査技師科 学科長	1年8か月	③
秋元 美幸	札幌医学技術福祉歯科専門学校 臨床検査技師科 主任	1年8か月	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（開催日時）
第1回 平成28年 6月24日 18:30 ～ 20:30
第2回 平成28年11月30日 18:30 ～ 20:00 予定

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

臨床検査技師を目指す入学生に対し、臨床検査技師の現場での仕事・役割について、また、3年次の臨地実習に行く前の心構えとして、現場の臨床検査技師の方に講演を行ってもらっている。また、将来臨床検査技師になり、学会等で発表する際に役立つよう、学会抄録の作成法、学会発表の方法について講演を行ってもらうよう検討中である。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学科の経営目標に基づく人材育成に際して、病院施設関係者等から最新の医療業界の動向や現場の実務に関する知識や技術についての意見等を伺い、それらを十分に反映させた授業科目の開設を検討し、授業の内容・方法の改善や工夫を図っていく方針である。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

実施希望項目、出欠、レポート、評価などについて臨地実習指導者会議にて説明、実施している。また、実習期間に訪問や電話にて各実習施設と連携をとっている。実習の進捗状況、学生の実習状況について状況把握して毎月第1、3、5土曜日の登校日に学生指導を行っている。さらに、実習終了後に学生の資質の変化や学校側として強化指導すべきことなどについてアンケートを取り、次年度実習をより良いものにすべく努力をしている。

（3）具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
臨地実習	学内の講義や実習で学んだ事を基本とし、実際の臨床現場での体験を通して、臨床検査技師としての実務を実践するのに必要な知識や技術を身につけると共に、医療人としての社会性や倫理観を養う。	札幌医科大学附属病院、北海道がんセンター、市立札幌病院、札幌厚生病院、北海道医療センター、手稲渓仁会病院、札幌徳洲会病院、札幌東徳洲会病院、NTT東日本札幌病院、斗南病院、KKR札幌医療センター、JCHO北海道病院、JR札幌病院、子ども総合医療・療育センター、小樽市立病院、小樽協会病院、済生会小樽病院、江別市立病院、岩見沢市立総合病院、小樽市立病院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教職員研修規程に則り、企業等と連携して、専攻分野における実務に関する研修や指導力の修得・向上のための研修等を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務等に応じて受講させることを基本方針とする。
また、校長は計画的に受講させるために年間研修計画を策定し、①専攻分野における実務に関する研修等、あるいは②指導力の修得・向上のための研修等を受講させる。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

・平成27年6月　「造血器腫瘍診断の未来像」
主催：日本臨床衛生検査技師会　場所：宮城

・平成27年8月　「医療の安全管理を目指して」
主催：公益社団法人日本看護協会　場所：東京

・平成27年8月　「日本臨床検査学教育協議会学術大会」
主催：日本臨床検査学教育協議会　場所：長野

・平成27年8月　「血液疾患と染色体検査」
主催：北海道臨床衛生検査技師　場所：札幌

・平成27年9月　「日本臨床衛生検査技師会　臨床一般部門研修会」
主催：日本臨床衛生検査技師会　場所：青森

・平成27年10月　「日臨技医学検査学会」
主催：日本臨床衛生検査技師会　場所：札幌

・平成27年11月　「日本臨床化学会」
主催：一般社団法人日本臨床化学会　場所：大阪

・平成27年7月　「第1回職業実践専門課程に係る研修会」
主催：北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会　場所：札幌

・平成27年12月　「第2回職業実践専門課程に係る研修会」
主催：北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会　場所：札幌

②指導力の修得・向上のための研修等
1)学園研修会
・平成27年度公開授業(全教員対象)
臨床検査技師科では、全教員が当該年度に1度公開授業および授業検討会を通して、個人の授業スキルアップを 図っている。授業指導案、コマシラバス、確認テストまたは到達度評価表を用い授業展開をする。授業実践 力向上の貴重な機会である。

・平成27年度初任者研修
1日目　1時限目　理事長講話
2時限目　西野学園の歩み
3時限目　専門学校の現状
4時限目　事務関係
5時限目　事務・服務関係
2日目　1時限目　学校教育および「わかる授業」への取り組み
2時限目　授業技術の習得①
3時限目　授業の組立と基本原理
4時限目　授業技術の習得②
5時限目　授業指導案の作成Ⅰ
3日目　1時限目　授業指導案の作成Ⅱ
2時限目 模擬授業および講評

・平成27年度全体研修（年に1度、2日間）
全学科の教職員が集い，各校の学生指導もしくは学科独自の実践発表を聴講し，情報の共有化を図る機会である。
1日目　1 経営方針
2 監事監査報告
3 研究・教育関連報告

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

・平成28年6月　「心エコーハンズオンセミナー」
主催：US lead　場所：東京
・平成28年8月　「日本検査学血液学会学術大会」
主催：一般社団法人日本検査血液学会　場所：福岡
・平成28年8月　「日本臨床検査学教育協議会学術大会」
主催：日本臨床検査学教育協議会　場所：神戸
・平成28年8月　「第61回医学教育セミナーとワークショップ」
主催：岐阜大学医学教育開発研究センター　場所：岐阜
・平成28年8月　「日本臨床衛生検査技師会　臨床一般部門研修会」
主催：日本臨床衛生検査技師会　場所：秋田
・平成28年7月　「第1回職業実践専門課程に係る研修会」
主催：北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会　場所：札幌
・平成28年12月　「第2回職業実践専門課程に係る研修会」
主催：北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会　場所：札幌

②指導力の修得・向上のための研修等
・平成28年度公開授業(全教員対象)
臨床検査技師科では、全教員が当該年度に1度公開授業および授業検討会を通して、個人の授業スキルアップを 図っている。授業指導案、コマシラバス、確認テストまたは到達度評価表を用い授業展開をする。授業実践 力向上の貴重な機会である。

・平成27年度初任者研修
1日目　1時限目　理事長講話
2時限目　西野学園の歩み
3時限目　専門学校の現状
4時限目　事務関係
5時限目　事務・服務関係
2日目　1時限目　学校教育および「わかる授業」への取り組み
2時限目　授業技術の習得①
3時限目　授業の組立と基本原理
4時限目　授業技術の習得②
5時限目　授業指導案の作成Ⅰ
3日目　1時限目　授業指導案の作成Ⅱ
2時限目 模擬授業および講評

・平成28年度全体研修（年に1度、2日間）

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき実施した自己点検評価結果について、学校関係者による評価を受けることにより自己点検結果の客観性・透明性を高める。また、教育活動に関する意見交換を通し、学校と密接に関係する外部の方（関連業界等関係者、関係専門職団体、地域住民、卒業生等）の理解促進や、連携協力による学校運営の改善を図ることを基本方針とし、実践的な職業教育の実施を目指す

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	1 理念・目標・育成人材は定められているか 2 社会のニーズ等を踏まえた学校の構想を抱いているか 3 理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか
（2）学校運営	4 目標等に沿った運営方針が策定されているか 5 運営組織は明確にされ、有効に機能しているか 6 情報システム等による業務の効率化が図られているか 7 学校内総合力を高めるための連携と協働体制の確立が図られているか 8 教育活動に関する情報公開が適切になされているか
（3）教育活動	9 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか 10 学校行事の適切な企画、円滑な運営がなされているか 11 授業規律を確保し、指導体制の立て直しが図られているか 12 関連分野の企業、関連施設等、業界団体等の連携により、教育課程の作成、見直しが行われているか 13 成績評価、単位認定の基準は明確になっているか 14 授業評価の実施、評価体制があるか 15 職員の能力開発のための研修が行われているか 16 クラス担任と教科担任の連携を密にし、学生の実態にあった指導法の確立に努めているか
（4）学修成果	17 就職率の向上は図られているか 18 退学率の低減は図られているか 19 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか
（5）学生支援	20 学生相談に関する体制は整備されているか 21 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 22 保護者と適切に連携しているか 23 卒業生への支援体制はあるか 24 LHRなどを効果的に活用し、職業観の育成に努めているか 25 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか 26 学生が自己理解、自己啓発、自己実現をするための方策が整備されているか
（6）教育環境	27 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか 28 図書室利用の活性化が図られているか 29 防災に対する体制は整備されているか
（7）学生の受入れ募集	30 学生の募集は適正に行われているか 31 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
（8）財務	32 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか 33 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
（9）法令等の遵守	34 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 35 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
（10）社会貢献・地域貢献	36 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 37 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか
（11）国際交流	－

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会による評価の結果、学校による自己点検結果については全般的に一定の理解を得ることが出来たと思われる。しかし、卒業生や他職種との連携や地域における役割等については課題として提示されたため、今後は学校・学科経営計画策定や、カリキュラム・授業内容の検討等の教育活動を見直す際の判断材料として意見を反映するよう取り組み、さらなる実践的な職業教育の実施を目指す。
なお、社会・地域貢献の一環として、今年度より学校祭を開催し地域住民との交流を図った。また、地域住民を招いて授業を実施する「地域交流授業」については委員からの要望が強かったため、今年度もさらに内容を深化させ実施予定である。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
福井　誠一	元北海道札幌東高等学校　校長	1年	元校長
品川　雅明	札幌医科大学附属病院　検査部　主任技師	1年	卒業生
早瀬　健太郎	医療法人社団　祐川整形外科医院　リハビリテーション科　科長	1年	企業等委員
松本　剛一	社会福祉法人ほくろう福祉協会　理事長	1年	企業等委員
室橋　高男	札幌医科大学附属病院　臨床工学部・医療安全部　主任技師	1年	卒業生
藪　貴代美	北海道言語聴覚士会　副会長 （医療法人明日佳　札幌宮の沢脳神経外科病院）	1年	企業等委員
吉田　建志	医療法人社団　デンタルクリニック大通り　理事長	1年	企業等委員
松田　　弘	札幌市中央区西第八町内会　会長	1年	地域住民代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生、校長等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ　　平成28年10月）
URL:　http://www.nishino-g.ac.jp

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に基づき、企業等の関係者の理解を深めるとともに、さらなる連携・協力の推進に資するため、教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供することを基本方針とする。これにより、相互の情報交換が促され、学外実習、就職指導など企業等との連携による活動の充実や、産業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につながることが期待される。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	●学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針 ●校長名、所在地、連絡先等 ●学校の沿革、歴史
（2）各学科等の教育	●収容定員、在学学生数 ●カリキュラム（科目編成、授業時間数） ●進級・卒業の要件等（成績評価基準、卒業修了の認定基準等） ●学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ●卒業後の進路（主な就職先、就職率等）
（3）教職員	●教職員数
（4）キャリア教育・実践的職業教育	●キャリア教育への取り組み状況 ●実習等の取り組み状況 ●就職支援等への取り組み状況
（5）様々な教育活動・教育環境	●学校行事への取り組み状況 ●課外活動（サークル活動等）
（6）学生の生活支援	●学生支援への取り組み状況
（7）学生納付金・修学支援	●学生納付金の取り扱い ●活用できる経済的支援措置の内容等（奨学金、授業料減免等の案内等）
（8）学校の財務	●賃借対照表、収支計算書
（9）学校評価	●自己評価、学校関係者評価の結果 ●評価結果を踏まえた改善方策
（10）国際連携の状況	–
（11）その他	●学校運営の状況に関するその他の情報

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法　ホームページ

URL:　http://www.nishino-g.ac.jp

授業科目等の概要

（医療専門課程臨床検査技師科）平成２８年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	心理学とは人の「こころの働き」を科学的に明らかにする学問です。単なる直観や推測に頼らずに科学的にこころの働きを見つめなおすことで、人は一般的にどのような心理傾向を持つのか、どのような心理からどのような行動が生じるのかを知ることが出来ます。そして、それらを知ることが、自分だけでなく他の人を助けることにもなるでしょう。 ★仕上がり像 １　一般的な人の心理傾向を知ることが出来る。 ２　心理学の知識を生かした判断が出来る。 ３　様々な人と向かい合う医療の現場で、臨床検査技師としての役目を果たせる。	1前	15	1	○			○			○	
○			国語表現法	社会では、日常話したり書いたりする何気ない「言葉」、すなわち国語表現によって、自分が評価され、他者とのコミュニケーションも成立します。この授業では、自己発見・自己啓発を心がけつつ、基本となる技術をマスターし、書き慣れることで国語表現力を高めていくことを目指します。 ★仕上がり像 １　実験・実習等のレポートが適切に書ける。 ２　就職に際して必要な国語基礎力を備え、自分をアピールできる作文が書ける。	1前	15	1	○			○			○	
○			コミュニケーション学	臨床検査技師として，医学知識と医療技術と共に重要なのが，いかに患者さん・上司・先輩等々とスムーズに「人間関係を築けるか」にあります。それらに必要不可欠なのが「コミュニケーション能力」です。その能力を講義・実習・ディスカッション・プレゼンテーションを通して、「自分の中に埋もれているコミュニケーション能力」を引き出します。目指す検定は「ビジネス実務マナー技能検定」の２・３級取得です。 ★仕上がり像 １　どのような立場の方々とでもスムーズに「コミュニケーション」を築くことができる。 ２　Ｔ（時）・Ｐ（場所）・Ｏ（状況）に応じて、敬語を使い分けができる。 ３　職業人（医療人）としての基本的マナーを身に付けられる。	1前	15	1	○			○			○	
○			基礎計算法	医療に関係する仕事をして行くうえで、水溶液の調製は避けて通ることのできない操作の一つである。「粉末試薬を水に溶かして、必要濃度の水溶液を必要な量だけつくる」とか、「濃縮保存液が何種類かあって、それらを適量ずつ取ってブレンドし、必要濃度の水溶液を必要な量だけつくる」という操作ができないと、お手上げになってしまう検査や実験もある。後になって困った事態に陥らないよう、早いうちに濃度計算方法を習得してしまおう。 ★仕上がり像 １　試薬調製のための濃度の計算が行える。 ２　実験データなどから定量的な計算を行い、目的成分の濃度を計算できる。	1前	15	1	○			○			○	
○			数学	物事を数量的に把握することは、たいへん大切なことです。 とくに、臨床検査技師という職業では、これは必須といえるでしょう。 この授業では、 ・中学・高校で学んだ数学の復習と基礎固め ・「統計学」（１年後期）のための準備 を目的とします。 ★仕上がり像 １　基礎的な計算力が向上しています。 ２　「数学は便利だ、役に立つ」ということがわかるようになります。	1前	15	1	○			○			○	
○			統計学	実験や測定を行うと、その結果としてデータが得られます。そこから何か役に立つ情報を引き出すには、統計学の理論にもとづいた処理が必要になります。 この授業では、まず統計学の考え方を学び、それから統計的処理の基礎のうち、臨床検査技師を目指す皆さんにとってとくに大切と思われることを学習します。 ★仕上がり像 １　統計学の基礎となっている考え方が理解できるようになります。 ２　データの統計的処理の考え方が理解できるようになります。 ３　比較的少ないデータなら、電卓を用いて自分で計算できるようになります。	1通	15	1	○			○			○	

○			物理学	臨床検査に利用される機器の原理を理解したり生命現象を科学的に理解するうえで、基本となる物理学は臨床検査を支える重要な科目である。 本講義を通じて、さまざまな物理現象についての理解を深め、この知識を基本として臨床検査の各領域での勉強に役立てていくことをねらいとする。 ★仕上がり像 次のようなことがわかるようになる。 １　物理学で扱う基本的な数学 ２　医療機器の作動原理と物理学 ３　物質の構成（物質の構成・原子の構造・イオン） ４　静電気の性質（帯電・静電気力・コンデンサー）	1 通	30	1	○			○			○	
○			生物学	・臨床検査技師を考え、「生命」・「ヒトの生物学」についての基礎生物的な授業 ・授業を通じて、理論と実践の両面から臨床検査技師の専門性の考察 ・生命、誕生等生命に関わる内容。ヒトの生物学、生命現象に興味が持てるような授業。 ★仕上がり像 １生物は細菌からヒトまで共通の原理に基づきながら複雑さと多様性を持つ。 ２ 医療技術者として必要な生命に対する理解が深まる。 ３ 生命とそれを支える生命現象の仕組みについて分子レベルを含めて理解できる。	1 前	15	1	○			○			○	
○			化学Ⅰ	現代社会の化学技術進歩はめざましく、私たちは高度な物質文明の中で生活しています。医療の現場においても技術革新が進み、それに伴い精度の高い検査結果が求められています。 分析における測定体系の構築、異常値に対する病態分析を含めた的確な考察や対応には化学的な知識は必要不可欠です。物質の構成や性質、状態間の変化、化学反応など無機化学の基礎的知識に加え、臨床検査の専門家として必要な化学知識を習得し、実践的な応用力を養う事を目的とします。 ★仕上がり像 １　周囲の様々な現象を化学的な観点から認識・理解する事ができる。 ２　臨床検査の専門科目を理解するうえで、必要な知識を習得できる。 ３　臨床検査の測定体系や結果解釈に対し化学知識を用いて考察し的確な対応をする事ができる。	1 前	30	1	○			○			○	
○			化学Ⅱ	化学Ⅰでの学習内容に基づき、無機化合物及び有機化合物の種類及び性質について学習し、生命の源である各種化学物質への理解を深めることを目的とする。 ★仕上がり像 １　基本的な有機化合物の構造と化学特性との関係を理解できる。 ２ 「生化学」や「臨床化学」などの専門科目を効率的に理解できるようになる。	1 後	30	1	○			○			○	
○			英語Ⅰ	英語を読んだり書いたり話したりする時、外国語として英語を学ぶ者にとっては最低限の英文のルールを、つまり英文法を知っておくことが大切です。英語Ⅰでは、日本語のルールなどと比較しながら基本的な英語の文法をできるだけ易しい方法で学習していきます。また、簡単な英文を読んだり書いたりして、英文の構造を考えていきたいと思います。語学は継続が大切です。１５回の授業を通して英文法の概要をつかみましょう。 ★仕上がり像 １　基本的な英文のルールを覚えて、日本語とは異なる英語の構造を理解する。 ２　易しい英文を読んだり書けるようになる。 ３　英語Ⅱ、Ⅲへとstep upするための土台となる英文法を再確認する。	1 前	30	1	○			○			○	
○			英語Ⅱ	英語Ⅱでは、基本的な医学用語を身につけ、医学に関する簡単な文章を読めるようにします。特に臨床検査に関する専門用語、略語、表現を中心に学習し、健康診断などでよく行われる検査については、できるだけ平易な構文を用いて外国人の患者さんにも手順を説明できるようにします。毎回授業の最後には、ドラマERを用いて検査項目のオーダーや検査結果の聞き取りをし、専門用語がどのように使われているか確認します。 ★仕上がり像 １　基本的な医学用語の意味がわかり、医学に関する簡単な文章を読むことができる。 ２　臨床検査に関する専門用語、略語の意味がわかり、発音できる。 ３　自然な早さの英語から、病名や症状、検査項目などを聞き取ることができる。 ４　外国人の患者さんに、検査室での対応ができる。	1 後	30	1	○			○			○	

○			医療倫理	医療における倫理の重要性を理解し、医療従事者として日常業務における倫理的問題に関する知識、態度及び考え方を学ぶ。新しい医の倫理の原則、医療従事者に求められる心構えやインフォームドコンセントに基づいた患者対応、生命操作技術の発展に伴って新たに生じた倫理的諸問題を対象とする生命倫理を学ぶ。 ★仕上がり像 １ 医療倫理が成立してきた歴史を説明できる。 ２ 医療倫理・生命倫理の特徴を説明できる。 ３ 医療倫理の四原則、その他の原則の特徴を説明できる。 ４ 医師・患者関係の特徴を説明できる。 ５ インフォームドコンセントの定義と重要性を説明できる。 ６ 守秘義務と個人情報保護の重要性を説明できる。 ７ 倫理綱領の重要性を説明できる。	1 後	15	1	○			○			○	
○			人体のしくみ	医学を学ぶ上で人体のしくみを知ることは基本です。本学科では、組織・細胞さらに分子までを学ぶことになりますが、基本的な人体のしくみの概略を掴んでおくことは重要です。小学校から高校までに修得した人体のしくみについて復習しましょう。そのしくみに弊害が起こるのが疾病です。その疾病の診断、治療のために臨床検査の意義がある事を学びます。 ★仕上がり像 １　人体の各臓器、器官の位置を理解することができる。 ２　各器官の働きについて理解することができる。 ３　人体のしくみと疾病の関わりを考えることができる。	1 前	15	1	○			○		○		
○			体育	１　運動・スポーツを通して自己の健康保持・増進、体力の向上を目指します。 ２　各種目の練習、ゲームを通して他者とのコミュニケーションを図り、集団で運動・スポーツをすることの楽しさと意義を体験します。 ３　各種の技術と理論及びルールを習得します。 ★仕上がり像 １　仲間と協力し、安全に気をつけながら、運動・スポーツを楽しむことができる。 ２　各種の技術、理論、ルールを理解し、戦術・作戦を考え工夫することができる。 ３　体力の保持・増進ができ、体を動かすことの楽しさを知ることができる。	1 通	30	1			○	○			○	
○			身体の構造	解剖学は正常人体の構造を研究する学問である。人体がどのような器官・組織・細胞から成り立っていて、どのような構造をもっているか、肉眼レベル、顕微鏡レベルあるいは分子レベルで解明するもので、生理学とともに医学にとって欠くことのできない最も基本的な科目である。身体の構造では、特に顕微鏡レベルでの基本的な構造について学ぶ。プリントを用い教科書を補完する。 ★仕上がり像 １　人体の構造を頭の中でイメージできる。 ２　そのイメージを模式図で書くことができる。 ３　そのイメージを言葉で説明できる。	1 前	20	1	○			○		○		
○			解剖学	解剖学は正常人体の構造を研究する学問である。人体がどのような器官・組織・細胞から成り立っていて、どのような構造をもっているか、肉眼レベル、顕微鏡レベルあるいは分子レベルで解明するもので、生理学とともに医学にとって欠くことのできない最も基本的な科目である。解剖学Ⅱでは、臓器別の解剖について学ぶ。 ★仕上がり像 １　人体の構造を頭の中でイメージできる。 ２　そのイメージを模式図で書くことができる。 ３　そのイメージを言葉で説明できる。	1 通	40	2	○			○			○	
○			形態・組織学実習	形態・組織学実習では実際の標本を顕微鏡観察し、スケッチをすることによって正常な組織の構造を理解し、その特徴をとらえることを目指します。光学顕微鏡の基本的操作はもちろんのこと、目的とする組織標本を提示できる手技を習得します。 ★仕上がり像 １　光学顕微鏡の手技を習得する。 ２　各臓器・組織等の基本構造を理解できる。 ３　各臓器・組織等の特徴を理解できる。	1 通	30	1	△		○	○		○		
○			身体の機能	医学の基本となる生理学ですが、より分かりやすく臓器の働きについて学びます。正常な働きを理解し、相互関係を理解することで疾患を理解できます。より詳細な機能が明確になっている最近の医療において、マクロ的にそれぞれの器官の働きを理解することは重要です。 ★仕上がり像 １　血液の機能を十分に理解することができる。 ２　主な器官の働きを理解することができる。 ３　全体的な身体の機能を理解することができる。	1 前	20	1	○			○		○		

○			生理学	生理学は、解剖学とともに、医学の基礎を知るための非常に重要な学問です。この科目では、主に神経系、内分泌系を学び命令系統のしくみを理解します。さらに、運動機能や感覚についてそのメカニズムを含め十分に理解を深めます。 ★仕上がり像 神経の興奮伝導のしくみ、筋収縮のメカニズム、感覚の受容器と感覚の発現機構などを理解することにより、自らの身体の中で起こっている現象に興味をもつようになる。	1 通	40	2	○			○			○	
○			栄養と代謝	人は食べ物を摂取し、それを代謝過程により化学的に処理することによって、体組織の維持やエネルギーの産生を行っています。適正な栄養摂取は、疾病予防や健康保持の観点からも不可欠であり、医療従事者はその意義について理解しておく必要があります。 本講義では主な栄養素の役割と、その体内代謝の概要を理解することにつとめ、これから学ぶ生化学や病態学の理解を深めるために、必要な基本的な知識を身につけていきます。 ★仕上がり像 １　栄養素の種類とその働きがわかる。 ２　糖質・脂質・蛋白質の生体内代謝の概要がわかる。 ３　臨床検査と栄養学との関わりを考えることができる。	1 前	15	1	○			○		○		
○			生化学	生化学は生物の体内で起きているさまざまな生命現象を分子レベルで理解しようとする学問です。すなわち、生物を構成する物質（生体物質）の化学的性質を理解し、次に生体内で生じる変化を化学的視点から、物質の流れとして理解しようとするものです。生体物質である糖質、脂質、タンパク質、核酸などの構造と性質および代謝に関わる酵素について学びます。 なお、生化学は臨床検査技師にとって必須な臨床化学、生理学、血清学、薬理学などの分野を理論的側面から支えています。 ★仕上がり像 １　生体物質である糖質、脂質、タンパク質、核酸の構造と性質について理解できる。 ２　糖質、脂質、タンパク質、核酸の代謝について理解できる。 ３　酵素の諸性質について理解できる。	1 通	40	1	○			○			○	
○			病理学Ⅰ	病理学は、病因や発生機序、症状、経過、転帰など、疾病の本質を解析する学問です。また、病理学は、解剖学、生理学、微生物学、生化学、分子生物学などの関連領域を基盤とし、病気により変化した人体の正常状態からの逸脱の程度、病変を主に病理形態学的に追求する事を目的とします。 疾病の病理学的解析は、病気の本質を極めるという医学の重要な領域を占め、臨床検査技師として知らなければならない必須の学問です。本講義では、いろいろな病気に共通な病理学的変化を中心に必要な知識の習得を目指して授業を進めて行きます。 ★仕上がり像 疾病の病因・発生機序を理解し、病理形態の変化を考えることができる。	2 前	30	1	○			○			○	
○			病理学Ⅱ	病理学Ⅰの病理学総論に引き続き、病理学Ⅱの授業を進めます。病理学Ⅱは人体を構成する臓器組織別に疾病の原因・病因・発生機序・疫学を中心に、病気の症状から、予想される経過、転帰までを学ぶ学問です。病理学Ⅱにおける疾病の解析は、病気による物質並びに生理機能の変化を形態学的変化としてとらえます。後期の病理学Ⅱでは、人体に発生する各種の疾病を器官・臓器別に解説し、臨床検査技師として必要な疾病の知識の習得を目指して行きます。 ★仕上がり像 疾病の病因・発生機序を理解し、病理形態の変化を考えることができる。	2 後	30	1	○			○			○	
○			免疫学	免疫とは自己と非自己を識別し、自己の個体としての独立性を守る機構です。感染症に対してどのように身を守っているか、その構成員個々の役割・相互作用等について理解します。 ★仕上がり像 １　生理機能としての免疫とは何かを理解する。 ２　免疫担当細胞の機能を理解する。 ３　各種免疫検査法による免疫機能の測定を理解する。	1 後	30	1	○			○			○	
○			微生物学	微生物学では微生物の形態、生理と機能、遺伝などの基礎的な分野を学びます。又、社会的に問題視されている院内感染、再興感染、特に結核、新興感染に対する知識、感染症に対する抗生物質投与による耐性菌の出現及び生体免疫の仕組などを理解します。（国家試験に対する知識を含む） ★仕上がり像 １　細菌学を通して微生物を理解することができる。 ２　細菌学を通して感染症を理解できる。	1 前	30	1	○			○			○	
○			ウィルス学	ウイルスに関する基礎知識を習得し、各ウイルスによる疾患の臨床症状と疫学を理解し、各ウイルス疾患の診断法、予防法、治療法等を学ぶ。 ★仕上がり像 １　ウイルスとはなにかを把握する。 ２　ウイルスによる疾患の臨床症状と疫学を知る。 ３　各ウイルス疾患の診断法、予防法、治療法を理解する。	2 前	30	1	○			○			○	

○			薬理学	薬物の生体に対する作用，その作用機序，体内動態，治療面における応用について学ぶ。 ★仕上がり像 薬物の生体に対する作用，その作用機序，医療分野への応用関係が理解できる。	2 前	15	1	○			○			○	
○			保健医療福祉概論	わが国の医療保険制度の仕組みを学び、各保険者の種類や給付率などの知識を習得する。この事は病院職員として大変有意義であり、病院の経営に各自がどのようにかかわっているのか、原価意識を持つことである。 また、健康保険法に制度化されている医科診療報酬点数表の構成を学び、特に診療行為コード60の検査については生化学検査項目のまるめや生体検査の逓減制について学習します。 ★仕上がり像 １　医療保険の仕組みが分かり保険証の種類や自己負担率がわかるようになる。 ２　簡単なカルテからコスト化することができるようになる。 ３　診療行為コード６０の検査については医事課のレセプト作成の現場で援助ができるようになる。	2 前	15	1	○			○			○	
○			公衆衛生学	公衆衛生を通じて、人口動態・疾患（生活習慣病や感染症）などの疫学を学びます。そのためには原因、経過、対策、予防を追及し理解することが重要です。この授業の目的は基礎知識の習得のみならず、医療従事者として応用行動することができる人材育成を含んでいます。エイズ、集団食中毒、結核などの感染症、肝炎ウイルスなどの医療感染、院内感染などの問題が多い現世で、疫学から動態を知り、それらの問題点を各論で学び基礎的概論を身につけることを目標とします。 ★仕上がり像 １　公衆衛生の概念を理解し、幅広い考え方を持つことができる。 ２　医療行為上問題となる疾病に対し対処することができる。 ３　基礎的知識を活用し、医療従事者として責任を果たせる。	1 前	30	1	○			○			○	
○			環境衛生学	古代から、多くの文明が勃興しやがて衰退し、ついに滅亡した例は多く知られている。その原因には環境の変化、疫病の発生などが上げられる。現代社会についてみると、20世紀までの科学の急速な発展の恩恵を受けて、われわれ人類は豊かで便利な生活を享受している。しかしその反面、我々を取り巻く環境には公害、地球規模の環境破壊など忌まわしい問題が山積している。 この授業では衛生学の立場から地球環境問題について、正確に把握し、的確に評価すること、またいかにして修復し、次の世代へ引き継ぐかを共に学ぶ。 ★仕上がり像 １　この授業を通じて、大気汚染、水質の汚染・汚濁などの実態や、また現在進行している地球規模の環境の破壊についても明確にすることが出来る。 ２　水道・下水道や大気・室内環境など、生活環境の保全について理解し、保全のための方策を知る。	1 通	15	1	○			○			○	
○			公衆衛生学特論	人の集団である地域や社会の保健衛生を対象として、保健衛生状況を科学的に分析し、その問題点を明らかにして疾病の予防と健康増進に寄与することを目的とします。保健統計（人口動態，国勢調査など）の現状、疫学の概念と役割、疫学調査の種類と方法、に疫学データの解釈について学び、さらに、疾病予防の観点から、感染症や生活習慣病の予防対策、母子保健、学校保健、産業衛生と共に、臨床検査技師関連法規についても確認します。 ★仕上がり像 １　疾病の予防における疫学の役割がわかる。 ２．集団の健康と疾病の現状を把握する上での衛生統計データの意義がわかる。 ３　関係法規の概要がわかる。	3 後	15	1	○			○		○		
○			情報科学	近年の高度医療化傾向は、従来の医学固有の技術のみならず周辺領域の科学技術によって支えられている。特に急速な発展を遂げているＩＴ技術はその代表である。 分析機器などはシステム化されコンピュータに接続されている。分析機器を扱うこと自体がコンピュータを操作することと言っても過言ではない。この授業では基礎理論や仕組みを学び情報処理に必要な知識や応用力を身につけて関係情報を適切かつ迅速に扱え、専門の業務遂行に役立たせるための学習をします。 ★仕上がり像 １　コンピュータの知識を応用でき、就職した先で役立たせることができる。 ２　臨床検査技師の国家試験問題で情報関連問題を難なく解くことができる。	1 前	30	1	○			○			○	

○			情報科学実習	講義で学んだ知識を実際に実習で確かめ、より確実なものとします。この授業ではキーボードやマウスの操作から始まり、将来の仕事に活用できるよう、日本語ワープロ＜Word＞、表計算ソフト＜Excel＞、プレゼンテーションソフト＜PowerPoint＞の操作を演習を通して学び、情報処理に必要な技能や応用力を身につけます。また、IT時代には欠かせないインターネットでの情報検索方法やVBAを使ったプログラミングも学びます。 ★仕上がり像 １　初めての人でもパソコンを操作することができるようになる。 ２　Word、Excel、PowerPointを使いこなすことができるようになる。 ３　インターネットなども活用でき、情報検索や処理ができるようになる。 ４　職場でパソコンを利用し，専門の業務に役立たせることができるようになる。	1 通	30	1	△		○	○			○	
○			医用工学	医用機器の構造、取り扱い、保守管理等について理解するための基礎となる電気工学を学ぶ。 ★仕上がり像 １　電界と磁界の現象が理解できる。 ２　直流回路の計算が理解できる。 ３　電気エネルギーの活用が理解できる。 ４　交流回路の計算が理解できる。	2 通	30	1	○			○			○	
○			医用工学Ⅱ	医用機器とそれに用いられる増幅器・トランスデューサ（センサ）の原理、構成や取扱い、安全の確保について基本的な事項を理解する。 ★仕上がり像 １　医用計測機器で多用される言葉や単位が理解できる。 ２　測定に用いられるトランスデューサ（センサ）の原理や構造が理解できる。 ３　医療機関で安全確保のための方法や基準値を知り、点検ができる。	2 後	30	1	○			○			○	
○			医用工学論	現代の医療はＭＥ技術、機器の支援がなくては成り立たない状況となっています。そして医療が現在のように発展した一因は、特にコンピュータとＭＥ機器を抜きにしては考えられません。ＭＥ機器を適正かつ安全に使用し、保守管理を行えるかが、今後の臨床検査技師の重要な仕事になります。そのために、各種ＭＥ機器の原理およびその基礎となる電気やコンピュータの知識を学びます。また、国家試験によく出題される事項を中心に学びます。 ★仕上がり像 １　各種ＭＥ機器の保守管理を適切に行うことができます。 ２　各種ＭＥ機器の原理を理解し、安全に操作することができます。 ３　医療情報システムの知識を応用でき就職先で、臨床検査技師としての役割を果たせます。	3 後	20	1	○			○		○		
○			臨床医学総論Ⅰ	「臨床医学総論」は医療の専門職として必要とされる臨床医学知識を得ることを目的とし、「Ⅰ」は基礎知識を、「Ⅱ」では重要な疾患について学ぶ。「臨床医学総論Ⅰ」では診断と治療においてどのような臨床検査が行われているかを知ることで、医学の基礎知識を習得すると共に臨床検査の医学における位置と重要性について理解することができる。 ★仕上がり像 １　臨床検査が臨床診断と治療において何を提供できるかを説明できる。 ２　主な臨床検査の内容と対象とされる疾患を説明できる。 ３　臨床で遭遇する機会の多い疾患のイメージを的確に説明できる。	1 後	15	1	○			○			○	
○			臨床医学総論Ⅱ	臨床医学総論Ⅱでは人体に生じうる主な疾患とその検査法についておのおのの疾患ごとに説明する。人体の疾患は無数に存在するが、人体の活動に必要な機能に関連する臓器が失調した場合のみが治療の対象となる。したがって、各臓器のもつ人体における役割を知ることで、どの臓器にどのような障害が生じた場合、臨床上問題になるかを理解することが可能となり、検査上の異常がいかなる形で出現するかを予想することもできる。 ★仕上がり像 １　各臓器が人体全体の活動においてなしている役割を説明できる。 ２　各臓器の失調がどのような障害、つまり疾患をもたらすかを説明できる。 ３　各臓器の失調を早期に発見する検査方法とその根拠を説明できる。	2 前	30	1	○			○			○	
○			臨床病態学	一般目標（GIO）：臨床検査技師として検査を行う上で必要とされる解剖、生理、病理、生化学的な知識を修得し、病態と検査の関連づけを構築する。 ★仕上がり像 行動目標（SBOs）： １　人体の解剖学的な解説ができる。 ２　人体の生理的な解説ができる。 ３　人体の生化学的な解説ができる。 ４　検査値の意味を説明できる。 ５　各検査の方法、臨床的意義、解釈、他の検査との関連性を示せる。 ６　上記1～5の各SBOs中の「解説、説明」の方法として、発言、筆記、口演発表、示説発表、インターネットによる表現などの多様な方法がとれる。	2 通	30	1	○			○			○	

○			遺伝病学	最近の分子遺伝学の発展はめざましいものがあり、特に分子生物学をベースにした遺伝学の知識も医学にどんどん入ってきています。この授業では、臨床検査技師を目指す学生に分子生物学の知識をふまえたヒトの染色体と遺伝子疾患の基礎知識を理解させることに重点をおきます。 ★仕上がり像 １　分子生物学をベースとした遺伝医学を理解することができる。 ２　ヒトの染色体と遺伝子疾患を理解できる。	1 後	15	1	○			○			○	
○			臨床検査学演習	医療を取り巻く環境は日々変化し、その技術も進歩し続けています。もちろん、臨床検査技師の資質向上も求められており、教科書で学んだことをどのように応用していけるかが問われています。 本講義では、各専門科目で学んだことを、実際の臨床現場で活用していくにはどのようにすればよいのか、データの読み方を通して学んで行きます。 ★仕上がり像 １　データからさまざまな情報を推測することができる。 ２　治療過程におけるデータの変化を考えることが理解できる。 ３　臨床検査技師として必要な資質は何かを考えて、その業務が果たせる。	3 通	60	2	△	○		○		○		
○			医動物学	医動物学は医学的に有害な動物を対象とする学問です。人体寄生虫や感染症を媒介する昆虫など対象は広範囲に渡ります。授業では人体寄生虫を中心に、正確な基礎知識の習得を目的とし、さらに世界や日本における諸問題に対して、的確に対処する力を養うことをねらいとしています。 ★仕上がり像 １　国内における医動物学的諸問題について、正確な知識を持っている。 ２　臨床医学の場で適切な医動物学的サポートができる。	1 後	30	1	○			○			○	
○			病理組織細胞学	病理組織学的検査においては、組織標本の作製は必要不可欠です。標本作製には正確な知識と技術が求められます。この授業ではパラフィンブロック標本を用いる検査を主体に、様々な標本作製方法について学びます。 細胞学的検査においては、その歴史と役割を正しく把握することが重要です。加齢とともに変わる内分泌、感染症腫瘍性病変などと様々な細胞像がみられる女性性器の細胞診は、日常検査で最も検体数が多くなっています。呼吸器細胞診断は次いで数の多いものです。授業ではこれらを主体に学びます。 ★仕上がり像 １　病理組織標本作製・電子顕微鏡標本作製の基礎が理解できる。 ２　細胞診標本作製の基礎が理解できる。 ３　細胞の種類、微細構造、細胞間物質の種類と役割を理解できる。	2 通	30	1	○			○			○	
○			病理組織細胞学実習Ⅰ	この授業では、病理学検査の主な標本作製技術と基本的な染色技術を学びます。病理学検査は決められた厚さに薄切、気温や時間などを考慮しての染色など、正確な知識と技術が求められる分野です。本実習では、標本作製方法のなかで最も一般的なパラフィン包埋標本の作製法について学びます。また、基本的な染色であるヘマトキシリン・エオジン染色（ＨＥ染色）や膠原線維の染色、弾性線維の染色、細網線維の染色について学んでいきます。 ★仕上がり像 １　切り出しからパラフィン包埋標本作製の流れを理解できる。 ２　ミクロトームを利用した薄切操作が実施できる。 ３　検査に必要な染色のなかで、ＨＥ染色、膠原線維の染色、弾性線維の染色、細網線維の染色を実施できる。	2 前	30	1	△		○	○		○		
○			病理組織細胞学実習Ⅱ	この授業では病理組織細胞学実習Ⅰに引き続き、病理学検査における特殊染色について学びます。染色工程の正確な理解を目標に実習しましょう。 細胞学的検査（細胞診）においては、最も普及しているパパニコロウ染色の原理を理解するとともに、正しい染色技術を学びます。また様々な症例の腫瘍病変の細胞像を観察し、病理組織診断と細胞像の比較や特徴を学びます。 ★仕上がり像 １　標本作製に必要な染色のなかで、多糖類の染色、脂肪染色、免疫組織化学的染色を実施できる。 ２　細胞学的検査において、パパニコロウ染色を実施できる。 ３　細胞学的検査において、様々な疾患の細胞学的特徴を理解できる。	2 後	45	1	△		○	○		○		
○			臨床血液学Ⅰ	臨床検査における血液検査学の領域は、その大部分を血球形態系と血液凝固系が占めており、基礎となる学問を理解していなければ臨床的にデータを判断することはかなり難しくなります。 本講義では、臨床血液学Ⅱ（２年次前期科目）で学ぶ内容（各検査結果の評価など）を理解するために必要な事柄を学び、下記の仕上がり像を目指します。 ★仕上がり像 １　血球の産生と崩壊、形態と機能など基礎的内容について述べるができる。 ２　止血機構、血液凝固と線溶それぞれの機序について述べることができる。 ３　血球および形態に関する検査についての手技と臨床的意義について述べることができる。	1 後	30	1	○			○		○		

○			臨床血液学Ⅱ	臨床検査における血液検査学の領域は、その大部分を血球形態系と血液凝固系が占めており、基礎となる学問を理解していなければ臨床的にデータを判断することはかなり難しくなります。 本講義では、血液疾患（貧血、白血病、出血傾向）などにおける血液検査の基礎から応用までを多角的に考えていき、理解を深めていきます。 ★仕上がり像 １　止血、血液凝固と線溶に関する検査についての手技と臨床的意義について述べることができる。 ２　検査で得られた情報の解析から各種疾患との関連について述べることができる。 ３　基本的な先天性異常と白血病等における染色体異常の基礎、検査について述べることができる。	2 前	30	1	○			○		○		
○			臨床血液学実習Ⅰ	この授業では、臨床血液学の基本である血球に関する検査を勉強します。現場ではアナライザーによる検査となりますが、本授業においては用手法による血球数のカウントを通して基本を学びます。また、染色により白血球を５つのタイプに分類し、スケッチ等により白血球を形態的に理解してもらいます。さらにヘモグロビン濃度の測定などにより貧血のタイプ（赤血球の大小、赤血球に含まれるヘモグロビン濃度の高低）を学習します。 ★仕上がり像 １　血球数のカウントに関する器具の使用法、計算方法を理解し正確な結果を得られるようになる。 ２　白血球を正確に５つのタイプに分類し、それぞれの特徴を説明できるようになる。	2 前	30	1	△		○	○		○		
○			臨床血液学実習Ⅱ	この授業では、血液凝固に関する検査や白血病に関連する実習を行います。凝固の成り立ちや血小板の働き、白血病等の分類に役立つ特殊染色法について学習します。また、赤血球系の特殊検査等についても学びます。 ★仕上がり像 １　凝固のカスケードを理解し，各凝固系検査の臨床的意義を理解している。 ２　血球が持つそれぞれの酵素を理解し、特殊染色の結果により血球の系統を把握できる。	2 後	45	1	△		○	○		○		
○			病理検査学	病理検査をおこなうためには、人体の解剖学的な理解、適切な標本作製のための技術が必要です。この授業においては、人体の構造と機能についての知識を再確認し、臨床で用いられている標本作製方法について学びます。また基本的な病理学知識について復習することにより、国家試験問題の理解を深めることができます。 ★仕上がり像 １　病理検査に必要な解剖学的知識が理解できる。 ２　目的に適した病理組織標本を作製するための知識について理解できる。 ３　総合的な見方で国家試験問題にアプローチし解答を導くことができる。	3 通	30	1	○			○		○		
○			血液検査学	臨床検査における血液検査学の領域は、その大部分を血球形態系と血液凝固系が占めており、基礎となる学問を理解していなければ臨床的にデータを判断することはかなり難しくなります。また、臨床検査技師養成学校において学ぶべきことは、国家試験問題として出題されており、それを分析し理解することも臨床検査技師に求められる資質といえます。 本講義では、血液検査の基礎から応用までを演習を交えて多角的に考えていき、国家試験問題の理解を深めていきます。 ★仕上がり像 １　血球の形態異常や血液凝固の機序を考え、その異常と疾患との関連がわかる。 ２　血液学的検査に必要とされる手法とその原理、特徴をとらえることができる。 ３　総合的な見方で国家試験問題にアプローチし解答を導くことができる。	3 通	30	1	○			○		○		
○			臨床検査総論Ⅰ	臨床検査総論は臨床検査技師を目指す学生が最初に学ぶ専門科目です。基本的には、尿検査、便検査、髄液検査等の、いわゆる一般検査といわれる誰もが良く知っている検査部門を中心に学ぶのですが、その測定方法や原理を学ぶ時、他の専門科目の知識が広く求められます。生化学、血清学、細菌学、血液学の基礎知識も要求されます。又、検体の採取方法や保存方法、精度管理の基本も学びます。臨床検査総論を学ぶ事により、医療現場における臨床検査技師の役割と使命、そして臨床検査技師に必要な基本事項やチーム医療等、医療の現場で実際に役立つ知識を幅広く身につけます。 ★仕上がり像 １　広く各検査の重要性を理解することができる。 ２　各検査の原理を熟知しなければ、大きな過誤を犯すことを理解することができる。 ３　各検査材料（検体）の正しい取り扱いや検査法を理解することで、技師としての役割りを果たすことができる。	1 前	30	1	○			○			○	

○			臨床検査総論Ⅱ	臨床検査総論は臨床検査技師を目指す学生が最初に学ぶ専門科目です。基本的には、尿検査、便検査、髄液検査等の、いわゆる一般検査といわれる、誰もが良く知っている検査部門を中心に学ぶのですが、その測定方法や原理を学ぶ時、他の専門科目の知識が広く求められます。生化学、血清学、細菌学、血液学の基礎知識も要求されます。又、検体の採取方法や保存方法、精度管理の基本も学びます。臨床検査総論を学ぶ事により、医療現場における臨床検査技師の役割と使命、そして臨床検査技師に必要な基本事項やチーム医療等、医療の現場で実際に役立つ知識を幅広く身につけます。 ★仕上がり像 １　広く各検査の重要性を理解することができる。 ２　各検査の原理を熟知しなければ、大きな過誤を犯すことを理解することができる。 ３　各検査材料（検体）の正しい取り扱いや検査法を理解することで、技師としての役割りを果たすことができる。	1 前	30	1	○			○			○	
○			一般検査学実習	一般検査、特に尿検査では検体採取が容易で、簡便な試験紙法が充実しているためスクリーニング検査として、様々な場面で重宝される検査です。しかし簡便な操作は、原理を熟知して取り組まなければ大きな誤りを招く事になります。本実習では、これらの原理を学び正しい測定を実施する力をつけます。さらに、尿沈渣など高度な情報を提供できるように学びます。また、外来での採血業務に検査技師が関わる施設も多く、事故につながりかねない採血手技をしっかりと習得できるように実習します。 ★仕上がり像 １　検査目的に応じた採血法を実施することができます。 ２　各検査の原理を理解し、正確な検査結果を出す事ができます。 ３　各検査材料の正しい取り扱いを身につけます。	1 通	45	1	△		○	○		○		
○			臨床化学Ⅰ	臨床化学は検査学を代表する学問であり、その基礎には化学や分析学だけではなく、生理学や免疫学など要素も含まれています。また、それを理解するためには、物理学、工学、数学の知識も不可欠であり、他の科目と関連付けながら学んでいくことが必要と考えます。 本講義では、検査計画から検査精度の管理や保証、薬品の濃度に関する基本知識を確認した上で、様々な分析法の基本原理について学びます。さらに、それらが実際に臨床現場でどのように利用されているかを紹介していきます。 ★仕上がり像 １　臨床化学分野で用いられる様々な計算ができる。 ２　基本となる分析法の原理がわかる。 ３　臨床検査に応用されている分析法と測定項目をイメージすることができる。	2 前	30	1	○			○		○		
○			臨床化学Ⅱ	臨床化学で分析する項目は多岐にわたっており、検査データを理解するには生体内の反応をしっかり頭に入れ、いろいろな可能性を考えていく必要があります。 本講義では、血液中のさまざまな化学成分の代謝や生体内での働きを確認し、疾患と検査データとの関連を学んでいきます。また、疾患以外でデータに異常をきたす原因にはどんなものがあるのかを同時に考えていきます。 ★仕上がり像 １　生体内の化学成分の代謝と機能がわかる。 ２　検査データに異常を来す病態を考えることができる。 ３　検査データをさまざまな角度から判断することができる。	2 後	30	1	○			○		○		
○			臨床化学実習Ⅰ	臨床化学検査は体液中の成分を化学的手法によって分析し、病気の診断や治療に必要なデータを提供するものです。 本実習では、臨床で利用されている測定法の基本原理を確認し、実際の検査を通して臨床検査技師として必要とされる知識と技術を身につけていきます。また、正しいデータを提供するために必要な配慮や、数値から知ることができる様々な生体情報についても学んでいきます。 ★仕上がり像 １　検査の準備から測定後のデータの処理、消毒･洗浄などの一連の検査作業が身につく。 ２　目的成分の化学的性質と測定法の特徴を理解して、データーを提供できる。 ３　検査データの異常を見極め、その原因を考えることができる。	2 前	30	1	△		○	○		○		
○			臨床化学実習Ⅱ	臨床検査において、どんなに優れた分析方法を用いても、測定時に一定の条件が保たれていなければデータの信頼性は失われてしまいます。 本実習では目的成分の測定法を学ぶだけではなく、測定条件を変化させて検査結果に与える影響を確認することで、さらに理解を深めていきます。また、入手したデータを様々な角度から分析し、疾患を総合的に考えていきます。 ★仕上がり像 １　測定に利用する酵素の性質がわかる。 ２　反応原理を理解し測定条件を設定することができる。 ３　測定の背景を理解した上で検査データの正しい判断ができる。	2 後	45	1	△		○	○		○		

○			放射性同位元素検査技術学	今日では、ＲＩ検査は疾病の診断に欠くことができない手段となって定着しています。臨床検査の分野でも放射性同位元素（ＲＩ）が積極的に利用されています。放射性同位元素の物理的性質および放射性化学的特性について学ぶと共に、放射性同位元素による検査法について学びます。 ★仕上がり像 １　教科書記載事項について充分に理解出来る知識を習得することができる。 ２　臨床検査技師国家試験問題正解率100%を目標とする。 ３　初級臨床検査技師として必要な知識を習得することができる。	3 通	15	1	○			○			○	
○			遺伝子・染色体検査学	遺伝子・染色体検査学を学ぶことで、遺伝子とは、DNA・RNAとは、染色体はどのように分類するのかなどを習得していきます。また、それに関わってくる各種の検査法についての内容や、病気に関する遺伝学の知識、遺伝子検査が持つ他の医学分野への可能性や、現在実際に行われている検査に関しての知識を探究していくことが目的です。	2 後	15	1	○			○		○		
○			遺伝子・染色体検査学実習	遺伝子・染色体検査学実習では、ＤＮＡの異常や変異の検査法を実践的に学びます。遺伝子検査 の基礎知識の整理として、ＤＮＡの抽出法、ＰＣＲ法の原理、アガロースゲル電気泳動等の技術を 習得します。遺伝子検査（各手技）の意味を理解し、応用できる知識を身につけることを目指しま す。 ★仕上がり像 １　遺伝子検査の基本を理解し、ＤＮＡの抽出・増幅・分析操作を行うことができる。 ２　遺伝子変異を確認するための制限酵素について理解することができる。 ３　肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子を理解することができる。	2 通	30	1	△		○	○		○		
○			一般検査学	一般検査学として、生物化学分析検査学(臨床検査総論）、形態検査学(医動物学）について、実際の検査方法および判定の仕方を理解し、臨床的意義についても理解します。国家試験に出題される項目に対応できるよう重要ポイント、重要語句の確認をします。 ★仕上がり像 １　主な一般検査方法について理解できる。 ２　一般検査項目の臨床的意義について理解できる。 ３　主な寄生虫の特徴、検査法について理解できる。 ４　検査管理の概要と臨床との関わりを理解できる。	3 通	30	1	○			○		○		
○			分析検査学	臨床検査における生物化学分析検査学の領域は、その大部分を臨床化学検査が占めており、基礎となる学問を理解していなければ臨床的にデータを判断することはかなり難しくなります。また、臨床検査技師養成校において学ぶべきことは、国家試験出題基準にも示されており、国家試験問題を分析し理解することも重要な学習であるといえます。 本講義では、生化学・生理学分野の復習をしながら、分析検査の基礎から応用までを演習を交えて多角的に考えていき、同時に国家試験問題の理解も深めていきます。 ★仕上がり像 １　生体内の化学成分の代謝と機能を考え、その異常と疾患との関連がわかる。 ２　分析に必要とされる手法とその原理、特徴をとらえることができる。 ３　総合的な見方で国家試験問題にアプローチし解答を導くことができる。	3 通	30	1	○			○		○		
○			臨床微生物学	感染症の診断は、まずその疾患が感染症であることの認識を行うとともに、それが一体いかなる病原体によるものかを正しく診断する必要がある。臨床微生物学では起炎微生物の生化学的性状やその病原性を理解し、またその微生物に有効な薬剤を学びます。(国家試験に対する知識を含む） ★仕上がり像 １　社会的に問題視されている院内感染を理解する事ができる。 ２　再興感染、新興感染を理解できる。 ３　耐性菌の出現及び生体免疫の仕組などを学ぶ事により、院内感染防止を果たせる。	2 前	30	1	○			○		○		
○			臨床微生物学実習Ⅰ	臨床微生物学実習Ⅰでは、患者由来の検査材料に含まれる感染情報を正しく取り出すための技術と知識の習得を目的とします。その為の基礎として、培地の作製方法、微生物の培養法、基本の染色であるグラム染色等を実習します。また、その基礎知識を応用し、グラム陽性球菌の同定検査の手法とその流れを理解します。 ★仕上がり像 １　微生物検査の基礎技術を習得することができる。 ２　グラム陽性球菌の形態的特徴や生化学的性状を理解することができる。 ３　グラム陽性球菌の同定検査の流れを理解し、菌名を推定することができる。	2 前	30	1	△		○	○		○		

○			臨床微生物学実習Ⅱ	臨床微生物学実習Ⅱでは、微生物学・臨床微生物学講義および臨床微生物学実習Ⅰで習得した基礎知識を生かし、病態を的確に把握する為の臨床検査技術を学びます。病原微生物を中心に微生物検査の検査手法とその流れを理解します。 ★仕上がり像 １　グラム陰性桿菌の形態的特徴や生化学的性状を理解することができる。 ２　グラム陰性桿菌の同定検査の流れを理解し､菌名を推定することができる。 ３　主な病原微生物の増殖機構、培養方法について説明することができる。	2 後	45	1	△		○	○		○		
○			臨床免疫学Ⅰ	感染症に対してどのように身を守っているのか、また、その具体的な防御機構と感染症の診断方法について学びます。 ★仕上がり像 １　生体防御としての自然免疫、獲得免疫を理解する。 ２　感染症の診断方法について理解する。	2 前	15	1	○			○			○	
○			臨床免疫学Ⅱ	アレルギー、自己免疫疾患、癌などの検査ならびに移植に際して副反応を抑えるための検査について理解します。 ★仕上がり像 アレルギー、癌、自己免疫疾患の診断ならびにHLA検査について理解できる。	2 後	30	1	○			○			○	
○			感染・免疫学基礎自習	微生物・免疫学検査は感染症などの診断や経過を観察する上で重要な検査です。感染に注意して作業することが最も重要です。また、基礎的な手技の習得が必要です。感染を理解し、適切な手技が行えることを目標とします。 ★仕上がり像 １　感染について理解し、注意することができる。 ２　微生物検査の基本的な技術を身につける。 ３　免疫検査の基本的な技術を身につける。	1 通	30	1	△		○	○		○		
○			臨床免疫学実習Ⅰ	免疫学検査は感染症や自己免疫疾患などの診断や経過を観察する上で重要な検査です。近年、免疫学検査においても機械化が進み、機械測定される項目も少なくないですが、本実習では免疫学検査で必要な基本的手技を学びます。高度な技術は正確で迅速な検査結果につながりますので、基本的操作の意味をしっかり理解します。また、目的の検査項目の臨床意義について理解します。 ★仕上がり像 １　免疫検査学の基本原理について理解できる。 ２　免疫検査学の基本的な技術を身につける。 ３　基本的な免疫検査の臨床的意義について理解できる。	2 前	30	1	△		○	○		○		
○			臨床免疫学実習Ⅱ	現在の免疫学検査では、非標識、標識検査によりより感度の良い検査が行われています。機械測定されている検査についてその原理を知り、診断経過観察に役立てます。本実習で学ぶ感染症についてはその検査手技もさることながら検査意義が重要です。さらに自己抗体蛍光抗体法や免疫電気泳動などはその型を分類し判定することで診断、治療に影響を与えますので、検査手技、原理、判定基準を身につけます。 ★仕上がり像 １　免疫検査学の基本原理について理解できる。 ２　免疫検査学の基本的な技術を身につける。 ３　基本的な免疫検査学の臨床的意義について理解できる。	2 後	45	1	△		○	○		○		
○			輸血・移植検査学	輸血検査は血液の移植と考えられ、リスクを伴う療法です。私たち検査技師はそのリスクを最小限に抑えるため、輸血に必要な血液型の基礎知識について学び、検査の臨床意義、原理について理解します。また、近年の医療機関においては輸血センターの設立が進み、検査技師が中心となってその責任を負っています。そのため、血液製剤の納品、発注、管理など事務的な対応も必要です。 安全で適正かつ有効な血液製剤の提供ができるよう学びます。 ★仕上がり像 １　輸血検査学の基礎知識について理解できる。 ２　輸血療法のリスクと効果について理解できる。 ３　輸血検査の原理、手技について理解できる。	2 通	30	1	○			○		○		
○			輸血検査学実習	輸血療法は血液の移植と考えられ、リスクを伴う療法で、正確かつ迅速さが要求されます。本実習では輸血検査に必要な血液型の基礎知識、検査の意義、原理についての理解を深めます。さらに実際の検査手技の習得、判定の正確な基準について身につけます。また、検査の結果を正しく判断し、安全な輸血製剤の提供について理解します。 ★仕上がり像 １　輸血検査学の基礎知識について理解できる。 ２　輸血療法のリスクと効果について理解できる。 ３　輸血検査の原理、手技について理解できる。	2 通	30	1	△		○	○		○		

○			微生物検査学	微生物検査学では１年次および２年次で学んだ知識の整理を行います。微生物検査を行うためには微生物の形態や生化学的性状、染色法や培養法など様々な知識が必要とされます。また、それらは国家試験にも出題されますので、国家試験問題にも対応できるよう理解を深めていきます。 ★仕上がり像 １　細菌検査の染色法や培養法を理解することができる。 ２　細菌の抗菌薬について理解することができる。 ３　細菌の形態的特徴や生化学的性状を理解することができる。	3 通	30	1	○			○		○		
○			免疫検査学	免疫の仕組みを理解し、担当細胞の働き、特徴を知ることは臨床的意義を理解し、検査をするうえで重要です。さらに最近になって、遺伝子の解析が進み様々なことがわかってきています。免疫システムとそのシグナルについてが解析され、治療にも使われるようになっています。国家試験対策としても重要な事項になってきています。 ★仕上がり像 １　免疫の仕組み(抗原、抗体、補体、免疫担当細胞など）について理解できる。 ２　主な免疫検査法について理解できる。 ３　重要語句について理解できる。	3 通	30	1	○			○		○		
○			臨床生理学Ⅰ	生体の機能はいくつかの系統に分類され、種々の組織の組合せによって作られる器官により営まれます。生理機能検査は系統別に循環機能検査、呼吸器系の検査、神経・筋機能検査、画像診断検査、感覚機能検査に分けられます。基礎科目である生理学から専門科目の臨床生理学にスムーズに移行できるように生理機能検査の中心となる循環機能検査の勉強をします。 ★仕上がり像 １　生体の機能と循環機能検査との関係が理解できる。 ２　病院等で実際に行われている循環器機能検査が理解できる。	1 通	15	1	○			○		○		
○			臨床生理学Ⅱ	指定テキストを中心に循環機能検査（心電図・心音図・脈波）について授業します。 ★仕上がり像 循環機能検査について理解することができる。	2 前	30	1	○			○			○	
○			臨床生理学Ⅲ	生理機能検査の中の呼吸器系の検査、神経・筋機能検査、感覚機能検査を学びます。特に臨床的なものと実際の検査に関係するものとの２つに分けて講義をします。 ★仕上がり像 １　呼吸器疾患や神経・筋疾患を理解することができます。 ２　病院等で実際に行われている検査が理解できます。 ３　各疾患の臨床像を把握し、正しい検査結果を出すことによりＭＴとしての責務を果たせます。	2 通	30	1	○			○			○	
○			臨床生理学Ⅳ	近年の医学のなかでも画像診断技術の進歩発展による検査装置の精度が向上したことと、患者様への弊害がない利点のため、診療部門での画像検査が急速に増加しています。超音波を用いた超音波検査、核磁気共鳴現象という物理現象を応用したＭＲＩ、体表面の温度分布を画像表示するサーモグラフィの原理・理論・検査について学びます。 ★仕上がり像 １　各画像検査の原理・基礎を理解することができます。 ２　健常な画像と疾患の画像を把握できます。 ３　画像診断ができることで、治療効果判定や疾患の診断の役割を果たせます。	2 通	30	1	○			○			○	
○			臨床生理学実習Ⅰ	本実習では生理機能検査のなかの心電図検査、心音図検査、脈波検査、運動負荷心電図検査を学びます。検査する側、検査を受ける側の両方を体験することで、気をつけなければならないことなど、患者さんへの接し方も学びます。また、循環器検査の理解を深め、実際の検査を通して臨床検査技師として必要とされる知識と技術を身につけていきます。 ★仕上がり像 １　心電図検査を実施することができる。 ２　心音図検査・脈波検査を実施することができる。 ３　運動負荷心電図検査を実施することができる。	2 前	30	1	△		○	○		○		
○			臨床生理学実習Ⅱ	本実習では生理機能検査のなかの換気機能検査、脳波検査、誘発脳電位検査、筋電図検査を学びます。これらの検査で適切な検査結果を得るためには、患者さん側の検査に対する理解と協力も必要になります。 呼吸器、神経・筋機能検査の理解を深め、知識と技術を身につけていきます。 ★仕上がり像 １　換気機能検査を実施することができる。 ２　脳波検査を実施することができる。 ３　誘発脳電位検査を実施することができる。 ４　筋電図検査を実施することができる。	2 通	45	1	△		○	○		○		

○			臨床生理学実習Ⅲ	超音波診断装置の正しい操作法を学び、アーチファクトおよびその対策ができ、鮮明な画像の描出ができるように超音波検査を学びます。超音波検査の習得は、解剖学的知識、技術、経験の３要素から成り立っています。 基礎知識の理解を深め、検査手技を身につけます。 ★仕上がり像 １　超音波診断装置を正しく操作することができる。 ２　アーチファクトがない鮮明な画像を描出できる。 ３　正確な検査をすることで、疾患の診断、経過観察、治療効果判定の役割を果たせる。	2 後	45	1	△		○	○		○		
○			救急医療学	患者に直接対面する生理機能検査や採血に携わる臨床検査技師は、検査施行時に患者が緊急事態に遭遇する可能性は少なくない。そこで、一次救命処置、二次救命処置の概要を身につけ、患者の急変時の対応ができ、速やかに救助できることを目的とする。 ★仕上がり像 １　心肺蘇生法の原理を理解し技術を身につける。 ２　緊急時の適切な対応方法ができる能力を養う。 ３　症状別に対応できる技術を養う。	3 前	15	1	○			○			○	
○			生理機能検査学	生理機能検査学では、２年次で学んだ知識を再確認し、臨床的意義についても学びます。測定機器の扱い方やアーチファクトについての知識、検査前処置のやり方、検査の進め方などもを学びます。それらは国家試験にも出題されますので、国家試験問題にも対応できるよう理解を深めていきます。 ★仕上がり像 １　主な生理機能検査について理解できる。 ２　各検査の異常と疾患との関連がわかる。 ３　総合的な見方で国家試験問題にアプローチし解答を導くことができる。	3 通	30	1	○			○		○		
○			検査機器総論	臨床検査に不可欠な検査機器について、その原理・使用目的・取り扱い上の注意・使用する立場での保守管理を理解します。 ★仕上がり像 １　臨床検査機器の原理・使用目的・取り扱い上の注意を理解できる。 ２　臨床検査機器の正しい保守管理を果たせる。	1 前	30	1	○			○			○	
○			検査管理総論Ⅰ	近代医学における臨床検査データは患者の診断･治療･経過観察に不可欠である。検査管理総論Ⅰは「検査データが生まれる」過程の学問である。検査室（科）の役割と組織、検査法の選択、検査機器の選別、そして精度管理に裏打ちされた検査データの信頼性を保証するものである。これらの重要性を認識させて、検査データの信頼性を得ることを目的として講義する。 ★仕上がり像 １　「科学的根拠に基づく検査値の提出」を理解することができる。 ２　検査業務の組織と精度管理の重要性を理解することができる。 ３　検査データを通して「チーム医療」の重要性を認識することができる。	1 後	30	1	○			○			○	
○			検査管理総論Ⅱ	検査精度の管理は、複雑多岐にわたる検査業務の優劣と信頼性を左右する重要なものであり、検査部門の評価にもつながる基盤ともなるものである。従って、その重要性を認識させ、広く医療の一端を担う自覚と自己管理をも含めての技師育成を目的として学習させる。 ★仕上がり像 １　検査業務の管理の仕組みと必要性を理解することができる。 ２　臨床検査全領域における情報管理の重要性を理解することができる。 ３　医療の一端を担う自覚と自己管理の重要性を理解し、検査部門の任務を果たすことができる。	2 通	30	1	○			○			○	
○			病院管理学	医療の質の評価を意識した病院管理を学び、医療の今後を見すえた学習をすすめます。具体的には、医療現場における変化の断面をとらえ、わかりやすく実例を取り入れて、体系的に学習を行っていきます。 ★仕上がり像 １　医療において、いかに人間性が大切であるかを理解することができます。 ２　医療現場での対応の実際が把握できます。	1 前	15	1	○			○			○	
○			安全管理学	検査や分析では可燃性物質や有毒物質など、使用にあたって十分注意しなければならない化学物質を使用します。実験者は、自らの安全を確保するために、使用する化学物質の性質や特徴を理解し、それに応じた正しい使用法や使用条件を設定しなければなりません。そこでこの授業では、可燃物・爆発物などの「危険物」と人体に有害な「毒物、劇物」について解説し、使用上の注意や曝露の影響について勉強し、実験安全の確保について理解を深めます。 ★仕上がり像 １ 人（患者）の心の痛みを知ること、人（患者）の気持ちを知ることが医療の基本です。このこ とを学ぶことで医療現場における業務に活かすことができる。 ２ 医療業務は、常にリスクを伴うものです。「人間はあやまちを犯す動物である」という認識か ら、リスク発生前にいかにこの問題と向き合うかということを学び、業務に活かすことができる。	1 通	15	1	○			○			○	

○			関係法規	臨床検査技師は、「臨床検査技師等に関する法律」により、その業務は一部を除き独占業務です。このことは、臨床検査技師に責任や業務等が重く課されていることを意味します。他の医療関係法規等によっても種々の法的規制があります。これらの医療関係法規を学ぶことにより、遵法精神を涵養し、そのことで業務遂行が円滑に行われ、また、自身が法により保護されることにつながります。臨床検査技師として、法の側面から責任をもって医療に参画できる一員となることを目指します。 ★仕上がり像 医療関係法規制の枠内で、法知識を持って自己能力を十分発揮できる臨床検査技師の資質を習得する。	1 後	15	1	○			○			○	
○			臨床検査学基礎実習	臨床検査の領域においては自動化やシステム化の導入により、ボタン操作ひとつで簡単に結果が出るようになってきました。しかし、その測定原理は分析技術に裏打ちされています。 本実習では、分析に用いる器具・装置の使用目的を学び、その操作法を身につけていきます。また、身近な材料を利用して、環境検査である大気、水質、食品検査の基本的な操作とその結果よりそれぞれの意味を学び、環境衛生について個人、社会レベルで考える力を身につけます。 ★仕上がり像 １　器具・機器の基本操作が身につく。 ２　目的に応じて使用する器具を選択することができる。 ３　分析機器の測定原理を理解し測定値への影響を考えることができる。 ４　食品の衛生環境を知る事ができる。 ５　大気、水質の基準値とその検査法の概要がわかる。	1 通	60	1	△		○	○		○		
○			医療安全管理学	高度化する医療現場において、臨床検査技師の些細なミスが患者への重大な過誤となる可能性が増加してきている。省令の改正により検体採取の範囲が拡大され、一層過誤の可能性は高まってくる。 医療従事者として患者の安全な医療を提供するためには、医療事故や医療過誤の発生原因からその対策までの一連の概念を修得することが不可欠である。本講義では、臨床検査技師の責任と役割を理解するとともに、医療過誤等の発生原因と特徴から対策まで系統的に医療業務全般における医療安全について、理解を深めます。 ★仕上がり像 １　医療安全管理の定義とその意義を説明できる。 ２　医療事故、医療過誤の実態を説明できる。 ３　検査と安全管理について説明できる。	3 後	15	1	○			○		○		
○			臨地実習	臨地実習は、学校で学んだ検査技術の基礎・基本の理論と実践が実際の業務として、どのように行われているのか、また、不特定多数の患者さんに、どのように対応しているのかを体験実習するよい機会です。卒業後の進路を決めるためにも、病院と医療社会の概要を理解し、医療人となるための研修を確実に自分のものにするように努力することが必要です。実際に検査について指導者のアドバイスを受けながら、病院には多くの職種の人たちが連携して働いていることについて見学実習し、説明を受け、検査室との関係や役割について学習するとともに、医療チームの一員としての倫理観を養います。 ★仕上がり像 １　患者さんへの対応や医療職のチームワークなどを学習し、マルチな能力を獲得することができる。 ２　臨床検査を理解するのみではなく、その業務ができる。 ３　医療人としての自覚を養うことで、将来の臨床検査技師としての役割を果たせる。	3 前	540	12	△		○		○		○	○
合計				91科目												

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	１学年の学期区分	2期
当該学科所定の修業年限以上在学し、履修すべき科目のすべてを修得し、学校納入金を完納した者に	１学期の授業期間	21週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。